

令和7年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立日出支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> * 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼 	<p>グランドデザインが適切に示されており、昨年までの課題や、ニーズを捉えたビジョンが設定できている。令和8年度からの学校運営協議会を通して、ビジョンの明確化が図られていくことが期待される。また、個々人の主体的な努力が学校運営に反映されているとともに、リーダーシップの向上が認められる。</p>
	2 組織的運営・責任体制	<ul style="list-style-type: none"> * 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備 	<p>ミドルリーダーが教育課題を理解し、改善を目指す姿勢が見られた。また、系統性を意識した教育課程編成が重点目標に組み込まれており、共通認識されている。</p>
	3 服務監督・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> * 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時に迅速に対応するための実効性のある訓練や研修の実施 * ヒヤリハット報告（医療的ケアを含む）の迅速な情報共有体制の整備 	<p>危機管理マニュアルの保護者向けリーフレットを作成するなどの努力が認められ、緊急時の対応フローがすべての場所において統一的に掲示されている。</p>
	4 家庭・地域との連携、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組 * 地域・企業・関係機関と連携・協働した取組 	<p>アンケートを資料として活用する姿勢は評価できる。定量的な指標を重視する傾向が見られるため、定性的な側面についても評価を深めることが望まれる。学校ホームページは適切に活用され、保護者からの評価も良好である。</p>
	5 センターの機能	<ul style="list-style-type: none"> * 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 	<p>市町の要請に基づき、5歳児健診への貢献がみられる。また、広域ながら積極的に巡回相談が行われている。</p>
学習指導	1 授業	<ul style="list-style-type: none"> * 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * チーム・ティーチングのよさを生かした指導の実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組 	<p>ミーティングシートを活用した検討など授業改善に取り組んでいる。また、年間指導計画の策定など共通理解の促進を図っているが、目標と手立てをより詳細に分析し計画に反映していく流れや、児童生徒の特性に応じた指導方法の工夫をさらに進めていくことと共に、チーム・ティーチングの利点を活かした指導の更なる向上が期待される。</p>
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> * 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善 	<p>個別の教育支援計画と個別の指導計画のつながりや、年間指導計画との違いなど、さらに整理していけるとよい。また、児童生徒の現在の状況や特性を十分に見据えた個別の指導計画の作成に期待したい。</p>
	3 授業研究・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> * 計画的な授業研究の実施等による、組織的な授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践 	<p>アンケート結果等を基に授業改善を行っているが、着眼点の見直しが必要な箇所も見られる。専門性の向上には積極的に取り組まれているため、今後は実践への展開により一層期待する。</p>
職業教育及び進路指導	1 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> * 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握、定着支援 	<p>地域企業と連携した学校全体での進路指導の取組がされているとともに、早期離職の予防のためミスマッチのない進路選択を目指しており、令和7年12月段階で、離職なしを継続できている点は高く評価できる。生徒の特技や興味関心を進路選択に結び付ける指導や進路希望の前提となる自己理解について、より低学年時からの設定に期待したい。</p>
	2 職場開拓・就業体験の機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> * 福祉・労働等の関係機関との情報共有、連携 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実 	<p>多数の関係機関から協力を得られるとともに、積極的に職場開拓が行われており、実績も増加している。産業側への周知活動に比重が置かれる傾向があるため、児童生徒が産業について理解を深めたり、職業観を広げたりする取組の機会の充実にも期待したい。</p>
豊かな心・健やかな体の育成	1 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組 * 情報モラル等、社会生活に必要な課題に対する適切な対応 	<p>情報モラルについては、企業と連携した外部講師を招いての教室開催など、工夫した取組が見られた。</p>
	2 教育相談	<ul style="list-style-type: none"> * 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組 	<p>スクールカウンセラー等と適切に連携している。特別支援教育コーディネーターなどの一部の教員や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに留まらず、より組織的に対応していくことを期待する。</p>
	3 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> * 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組 	<p>適切に計画がされており、生徒が学校行事に積極的・意欲的に取り組んでいる様子が見られた。</p>
	4 安全管理・医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒の健康管理のための取組 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制の整備 	<p>スクールバス乗車状況について、担当者がスクールバスの介助員と連携を図り、利用している児童生徒の状況を校内で共有することができている。</p>
総合評価	<p>ミドルリーダーを中心に意識の変化が見られ、主体的に学校改善や教育の質的向上に取り組もうとする意欲が見られる。職業教育及び進路指導では、実習先の開拓やワーキングフェアを通じた企業と児童生徒の交流の機会を作るなどの取組がされており、すでに高い水準にある。学習指導についても、年間指導計画の整備、授業改善ミーティングシートの活用、授業研究会の実施を通して、組織として質の向上に向けた取組がされており、児童生徒が安心安全に学校に通えるような環境整備も進んでいる。今後も、児童生徒一人一人の特性に深く向き合い、自己肯定感の向上のみならず、受援力の育成や、自己理解の促進を意識した指導方法の確立を期待したい。また、学校評価のアンケート調査の結果を反映しようとする姿勢や、保護者面談の実施率が高いことも高く評価できる。今後は、数値の増減といった定量的な指標に注目するだけでなく、定性的な評価を重視していくことに期待する。</p>		
校長コメント	<p>今年度の学校運営を進めていくにあたり、第三者評価委員の方々からの専門的視点からのご指摘は大変に有意義であった。学部主事や分掌主任をはじめとする教職員たちも、これまでの取組を丁寧に見直しながら、一年間業務に励むことができた。教職員の意識の変化は、校長としても大変心強かった。学習指導については、改善・整理すべき点を数多くご指摘頂いた。教員一人一人の授業力を高めていけるよう実践に力を入れていきたい。職業教育については高い評価を頂いた。今後も、児童生徒の産業に対する理解を深め、職業観を広げられる取組を講じていきたい。個々の児童生徒の特性理解という点で教職員格差についてご指摘頂いた。児童生徒一人一人の特性に深く向き合える教職員組織をつくれるよう研修等の工夫をしていきたい。今後は、定量的な評価だけでなく、定性的な評価も重んじながら、教職員全体で安全・安心で信頼される学校づくりに邁進していきたい。</p>		